



え い ち 叡智と愛 2.0

白杵市立北中学校
校長通信 NO.30
令和7年11月20日
文責:戸高浩二

北中生へ シン・文化祭 2.0 を終えて…④

【体験型:ゲーム・ロボット】

ゲームのメンバーは、細かなプログラムを地道に打ち込んだり、先生の写真を入れたり、オリジナルキャラクターを作ったりしながらゲームを完成させた。どのゲームも個性的で北中生の豊かな感性とプログラミングの能力の高さに感心した。会場では多くの北中生や地域の子どもたちが夢中になって、ゲームをしていた。



ロボットのメンバーはチームを作り、チームでアイデアを出したり、改良を重ねたりしながら、速く、多くの物を運ぶことができるロボットを作った。性能だけでなく、デザインにこだわったカッコいいロボットもあった。ホールではロボットを操る大人の姿を見た。子どもの頃、ラジコンで遊んでいたことを思い出したのだろうか。その顔は笑顔に満ちあふれていた。

【映像:フリー(筋肉)・食・芸術・自然・メディア】

フリー(筋肉)は諏訪山やジム、ジョギングコースでトレーニングする様子や筋肉を増強する食事を作る様子を編集していた。本来、トレーニングはつらいものだが、仲間と一緒にだったからか、とても楽しそうだった。そしてリーフレット。初心者・中級・上級者向けのプロテインや、ダイエット・筋肉アップなど目的に合ったトレーニング、白杵市内の筋トレスポットを2ページにまとめていた。映像とリーフレットを見て「いろんな筋トレをしてみたい!」と意欲がわいた。※校長はほぼ毎日腹筋をしています。

食は料理の作り方を聞き取りやすいナレーションと動画、写真を使いながら説明していた。「彩り弁当」の印刷されたレシピは必要なことをシンプルに書かれていたので、「これなら、自分も作れるぞ」と思わせるものだった。「うすきプレート」のリーフレットは、大学芋やサラダなどの栄養分が記載されており、体によいものをバランスよく摂るにはどうすればいいのかを考えさせられる作品だった。

芸術のメイキング映像は台本の制作から練習、フィールドワーク、リハーサルまでの様子が分かる作品だった。メンバーの生き生きとした表情がとても印象的だった。また、仲間と一緒に真剣に取り組んでいる様子もあり、このチームワークがああ劇を創り上げたのだと改めて感じた。

自然は農作業や芋ほり体験、魚釣り、干潟の学習など、これまでの様々な体験をすべて取り入れた長編の動画だった。特に印象に残ったのは農作業だ。あの酷暑の中、汗を流しながらやった作業と休憩中の笑顔。やる時はやる。楽しむ時は楽しむ。自然チームの良さが見事に表現されていた。

メディアの映像の時間は26分を上回る力作だった。どれも北中生の個性あふれる写真を取り入れており、見ていて楽しくなった。後半のインタビューはただインタビューを流すのではなく、上手に編集しており、制作者のセンスの良さを感じた。

文化祭実行委員へ

文化祭実行委員のみんな、お疲れ様。私は若い頃、ずっと生徒会担当だったので、実行委員の思いや苦勞がよく分かる。“最高の文化祭をつくる!”実行委員の全員がその強い意志を持って取り組んだはずだ。そして本番。最高の文化祭になった。保護者や地域の方たちから、「他の学校にはない、北中にしかできない最高の文化祭でした」という声をたくさん聞いた。最高の文化祭を陰でしっかりと支えてくれた実行委員。ありがとう。

すべての北中生へ

すべての北中生が自分の役割を果たした文化祭。すべての北中生が個性を発揮した文化祭。すべての北中生が熱い思いをもって挑んだ文化祭。すべての北中生が夢中になった文化祭。文化祭の閉幕行事。すべての北中生の達成感を実行委員長の涙に表れていた。光り輝く最高の文化祭、ありがとう。